

# 講演のまとめ

横山 晃 泰

在職していた設計・監理会社では土木技術者として、海外を含め(復帰前の沖縄?, 北ア, インドネシア, 台湾等に滞在)公共・民間を問わずさまざまなプロジェクトの設計, 調査, 施工監理業務などに従事。定年退職後は、それまで培ってきた技術や知識, 経験を積極的に開発途上国に移転したいとの思いで、JICA(国際協力機構)のシニア海外ボランティアとして、カンボジア(教育機関で土木工学指導; 2003~2005年, 北アールでの災害対策セミナーにも参加)および南部アフリカのマラウイ(ダイヤモンド探査指導および宝石類や非金属鉱物の調査とそれらの同国経済への利用・発展への提言; 2006年~2009年)に赴任。また、サウジアラビア, ベトナム, ミャンマーにも土木技術者として滞在し、さらにNPOとの委託契約で、中部アフリカのウガンダで南スーダンから避難してきた難民支援(2017年; 難民居住地区で彼らと実際に接してみると、ごく質素な生活を営みながらも明るく陽気なふるまいだったのが印象的)、今世紀初めにインドネシアから独立した東ティモールでは、自動車検査員養成事業の現地代表(2018年)に従事。業務の合間を見つけて、現地の大学や専門学校等で持参していた写真や動画, ポスターなどを使って、日本の風習や文化, 雪景色を含む四季の映像, 日本語の歌等を紹介した(天皇の男系世襲制の話をした時にそれはおかしい、という意見があったのが印象的だった)。

文化や風習等の違いでつまづきかけた時も当然あったが、現地の人たちの考えを尊重しながらも主張すべきことは譲らず、あきらめずに辛抱強く話し合い、思い切ってやってみればそれ相当の成果が得られるということが分かった。一日にひとつのことが出来ればO.K.と割り切って、「アワテズ, アセラズ, アナドラズ」という教訓を学んだ。

頻繁に生じる停電や断水に悩まされたり、時には日本語に飢えることもあったが、日本語の挨拶や応対方法を教えるなどして、地元住民の気さくで人なつっこいふるまい、それに何よりも子供たちの純真な目と屈託の無い笑顔には随分癒やされた。

「世界で暮らす」と題して、市内の小学生を対象に、訪れた海外各地で撮った写真や動画映像, 音楽等をまじえたお話し会を継続的に実施中(我が国とはひと味もふた味も異なる海外の様子や外国語に興味を持ってもらうため)で、楽しんでもらっている。

開発途上国に関しては以前から大きな関心と好奇心, 興味を持っているが、現地に入り込んでの草の根的な模索活動を通じて、支援状況など日本のあり方について考えさせられることも多々あった。